

2006年3月修了

環境学専攻社会文化環境コース

地方圏の持続可能な観光まちづくりに貢献する市民活動の展開に関する研究 えひめ町並博 2004 を事例として

Process of citizens' activity supporting sustainable tourism planning for local area

Case study on Ehime Machinami Haku 2004

学籍番号 46829

氏名 高橋 花 (Takahashi, hana)

指導教員 原田 昇 教授

Key words: 市民活動, 地方圏, まちづくり

1. 研究の背景と目的

高齢化や過疎化の進む小規模の地方の町村が、地域資源を活用した新たな取り組みを行うことで、衰退することなく交流人口を増加させる地域づくり型観光が各地で実践されている。地方の小規模の地域圏では、モノづくり系の新たな産業誘致を行うことで地域の発展を目指すより、従来の産業や地域資源を活かす地域を発展させることができる観光産業に、新たな活路を見いだすほうが効率的である。

本研究では、小規模の地方地域圏において、持続を条件とした観光政策アプローチに応じ、市民活動がどのように形成され発展していくのかを明らかにする。

持続可能な地域圏の構築のためには、従来のような地域発生型の問題解決的なボトムアップアプローチだけではなく、地方分権型社会への移行に伴って将来的に増えてくるであろう、政策的に主導した新たなタイプの市民活動の形成・発展プロセスを把握する必要がある。本研究では、イベントを導入して市民活動をほぼ同時期に発生させ、地域資源や地域ごとの特性をふましつつ、その活動を持続的に展開していく、画期的な事例を対象とする。市民活動の発生とその展開過程について整理し、持続可能性の要件を明らかにする。

2. 研究対象事例

研究対象事例は、2004年4月から10月まで、愛媛県の南予地域で実施された、「えひめ町並博 2004」(以下町並博と略)である。町並博は、ほぼ同時期に一定の地域圏に、観光まちづくりを行う市民の活動グループ「自主企画グループ」を多数創出させ、1グループにつき上限100万円の補助金を与えて市民主体の事業を支援した画期的な事例である。本事例の分析によって、各グループの特性や地域事情などをふまえた観光まちづくり活動の展開パターンをみることができる。

図1: 町並博のイベント構造

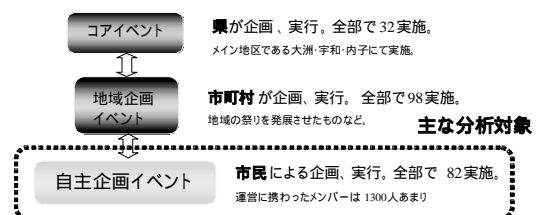


図2: 愛媛県南予地域



表 1: 全自主企画グループ

No.	自治体	自主企画イベント	実施主体
1	八幡浜市	大漁祭はたらく八幡浜商工会	わたはちはたらく八幡浜商工会
2		八幡浜市 公民館	八幡浜市公民館
3		八幡浜市 町民会館	八幡浜市町民会館
4		八幡浜市 町民会館	八幡浜市町民会館
5		八幡浜市 町民会館	八幡浜市町民会館
6		八幡浜市 町民会館	八幡浜市町民会館
7		八幡浜市 町民会館	八幡浜市町民会館
8		八幡浜市 町民会館	八幡浜市町民会館
9		八幡浜市 町民会館	八幡浜市町民会館
10		八幡浜市 町民会館	八幡浜市町民会館
11		八幡浜市 町民会館	八幡浜市町民会館
12		八幡浜市 町民会館	八幡浜市町民会館
13		八幡浜市 町民会館	八幡浜市町民会館
14		八幡浜市 町民会館	八幡浜市町民会館
15		八幡浜市 町民会館	八幡浜市町民会館
16		八幡浜市 町民会館	八幡浜市町民会館
17		八幡浜市 町民会館	八幡浜市町民会館
18		八幡浜市 町民会館	八幡浜市町民会館
19		八幡浜市 町民会館	八幡浜市町民会館
20		八幡浜市 町民会館	八幡浜市町民会館
21		八幡浜市 町民会館	八幡浜市町民会館
22	大洲市	大洲市 町民会館	大洲市町民会館
23		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
24		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
25		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
26		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
27		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
28		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
29		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
30		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
31		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
32		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
33		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
34		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
35		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
36		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
37		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
38		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
39		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
40		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
41		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
42		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
43		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
44		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
45		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
46		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
47		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
48		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
49		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
50		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
51		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
52		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
53		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
54		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
55		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
56		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
57		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
58		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
59		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
60		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
61		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
62		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
63		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
64		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
65		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
66		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
67		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
68		大洲市 町民会館	大洲市町民会館
69		大洲市 町民会館	大洲市町民会館

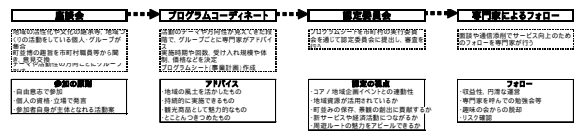
5. 活動の創出過程

町並博における市民活動の創出は、町並博の自主企画グループは、4段階を経て形成される。

- 座談会
- プログラムコーディネート
- 認定委員会
- 専門家によるフォロー

座談会は各市町村が主催し、町並博に興味・関心のある市民が任意で参加する。専門家によるプログラムコーディネートによってイベントの事業計画を個別に何度も討議を繰り返しながら練り上げた後、県の認定委員会の許可が下りて初めて、補助金が下りる仕組みになっている。そして 専門家によるフォローを各グループの都合によって取り入れながら、活動を実行していく。よって、活動の発生および育成プロセスには、グループごとに差がないものと考えられる。

図: 住民参加フロー



4. 研究方法

研究方法は、アンケート調査と聞き取り調査により行う。

アンケート調査

実施日時：2004年12月

調査対象：全ての自主企画グループ

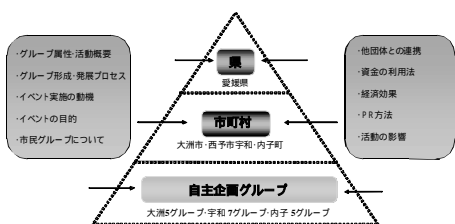
(83グループ)

聞き取り調査

実施日時：2005年9月

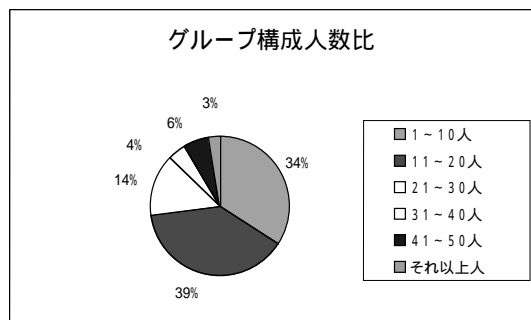
調査対象：愛媛県+メイン3地区の市町村の町並博担当者+メイン3地区の任意の自主企画グループ(15グループ)

図: 聞き取り調査実施のイメージ図



6. 自主企画グループの概要

図: グループ構成人数比



表および図：イベント別グループ活動内容

遊ぶ	19	レジャーや体験型のイベントを実施するプログラム
食べる	19	食に関するプログラム
アート	22	手工芸や写真など、アートに関するプログラム
ガイド	6	ガイドツアーなど、ガイドを行うプログラム
市	6	地域の市場など、販売が中心のプログラム
乗り物	4	バスやレンタサイクルなど、交通中心のプログラム
メディア	3	映画やCM撮影などメディアに関するプログラム
祭・伝統芸能	4	祭や伝統芸能に関するプログラム



表および図：活用した地域資源別グループ活動内容

建物	12	文化財など、価値のある建築物を活用したプログラム
風景	19	おもに町並みの景観を活用したプログラム
モノ	24	食べ物など、地域の産物を活用したプログラム
人	5	人が資源としかいいようがないガイド等のプログラム
暮らし	13	町の暮らしや農村の暮らしなどを活用したプログラム
自然	10	自然や自然景観を活用したプログラム



7. グループの持続可能性

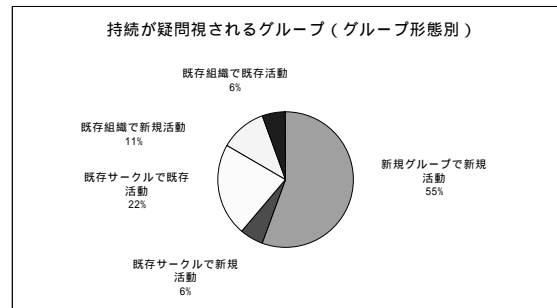
町並博のイベント期間終了後、活動を継続するグループと、継続に難色を示すグループとに分かれた。補助金を出す以上、各グループは継続を条件とされていたが、継続は8割程度になった。持続可能性がないグループについて、聞き取りの内容をもとに、グループの形態別に分類を行った。

表：グループ形態別分類

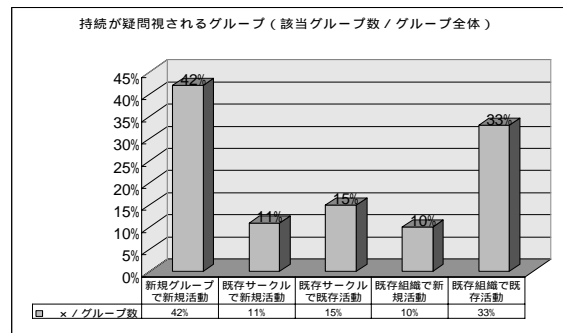
新規グループで新規活動	23(認定24)
既存サークルで新規活動	9
既存サークルで既存活動	26
既存組織で新規活動	21
既存組織で既存活動	3

「サークル」とは、利益を重視しない趣味的活動を行っていたグループを指す。一方「組織」は、商工会などに代表される職業的なつながりがあるか、または組織として活動が確立されているグループを指す。

図：活動が疑問視されるグループ(形態別)



図：活動が疑問視されるグループ(グループ別割合)



図：活動形態と持続可能性



活動が疑問視されるグループは、新規にグループを形成し、新規の活動を行ったグループが半数以上であるという結果になった。この結果をふまえると、活動の継続は、コミュニティの存在、すなわち既存活動の蓄積に依存していることがわかる。

8. 県・市町村・市民の連携

本事例では、まちづくり活動が県・市町村・市民グループの3層に関連している。このように多様なステークホルダーが参加するケースにおいては、それぞれの立場によって目的の違いなどがみられる。町並博では、県は観光ブランドの創出に意欲的であったが、市町村間ではまちづくり活動に取り組む姿勢の違いがあった。また市民レベルでも地域住民と、まちづくり活動を行う市民との間に意識の違いがみられ、合意形成が難しい状況にあった。

観光ブランドの確立	
県	地域型観光ビジネス創出 「旅商予コーポ・コンソーシアム」結成、旅行代理店等と連携したコンソーシアム、大洲・伊方を中心に事業展開を予定、11.2を目標に多数の観光資源を調査・配置、大洲まわりの観光資源を調査・配置、大洲まわりの観光資源を調査・配置、大洲まわりの観光資源を調査・配置
市町村	県と連携的に連携 大洲市のTMO親おおす街なか再生館が「旅商予コーポ・コンソーシアム」の事業主体のひとつとなっている 町並博 大洲まわりの観光資源を調査・配置、大洲まわりの観光資源を調査・配置、大洲まわりの観光資源を調査・配置、大洲まわりの観光資源を調査・配置
市民	活動を持続可能な活動 YOSAKOIの盛りイベントとして毎年一回の開催が限られる 旅商予コーポ・コンソーシアムが提供する観光型観光ビジネス創出の事業主体のひとつとなっている 旅商予コーポ・コンソーシアムが提供する観光型観光ビジネス創出の事業主体のひとつとなっている 旅商予コーポ・コンソーシアムが提供する観光型観光ビジネス創出の事業主体のひとつとなっている 旅商予コーポ・コンソーシアムが提供する観光型観光ビジネス創出の事業主体のひとつとなっている

9. 持続可能な観光まちづくりの

観光は交流人口の拡大に効果的であり、また労働需要の創出などの効果が得られるため、地域経済に貢献できる可能性が大きい産業であるが、一方で、季節の変動やブームなどに左右されやすい、不安定な産業でもある。小規模地方地域圏の基幹産業が観光にシフトすると、その不安定さの影響を直に受けることになる。たとえ観光ビジネスの創出に成功したとしても、地域規模が小さいため、宿泊や交通関連施設等の設備や資源が間に合わない場合もある。持続可能な観光とはおそらく、環境や地域資源に関する理解がある、レベルの高い観光客が、リピーターとして何度も訪れる構造をつくっていくことである。優れた観光ブランドが認知され、全国規模でアピールできるような価値の高い地域を形成することは有意義ではあるが、それは観光が基幹産業である地域の場合にしかあてはまらない。観光へのシフトを行うよりは、地域の文化・歴史などの地域資源をうまく観光に取り入れながら、農業をなどの地域の基幹産業をしっかりと持続させ、そこに観光を寄り添わせることである。兼業農家ならぬ、兼業観光が望ましい。牽引力のある近隣都市圏をターゲットに、レベルの高い観光客を徐々に誘導し、地域を観光に慣らしていくことが求められる。観光を、いわば地産地消にすることによって、地域の規模に合わせた発展が達成される可能性があり、したがって持続可能であるといえよう。

【参考文献】

野嶋慎二・松本清悟(2001)「まちづくり市民組織の発足と展開のプロセスに関する研究 長浜市中心市街地の事例」日本都市計画学会都市計画論文集 No.36 pp.7-12.